

『伝統的な和装文化と令和の価値観』のための雑誌制作

○概要

日本の伝統民族衣装である着物は現代社会では衰退している業界である。

そのため若者世代に着物を身近に感じ、触れてもらうことができるように身近な名前や着方を中心とした情報を雑誌としてまとめ、制作した。

○背景

日本の伝統民族衣装である着物だが、ライフスタイルの変動により着用されなくなっているのが現状である。近年では、「和」文化として着物に興味を持つ人々や、洋装と組み合わせた和洋折衷と呼ばれる着方をする人々も増えてきたが需要と全体の数で見れば購入する人は減少している。

その結果、需要がないため供給源であるそもそもの着物を作る職人や手直しをする職人の減少が著しい。

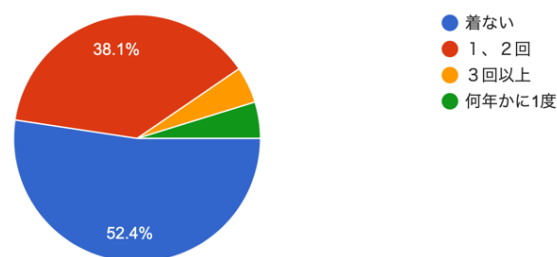
現在は海外に依頼してミシンで仕立てや手直しをするビジネスが増えてきているがやはり

伝統的なきちんとした職人技と比較すると惜しいことが多々ある。

今回アンケートを実施した際に得られた回答として、図1が示すように52.4%の人が1年に一度も着物を着ないことがわかった。また若者の着物離れの要因には図2が示すように「高そう」「苦しい」といった声が大きかったです。しかしそれ以上に着用してみると「可愛い」「また着たい」といった声があった。

4. 1年に何回着物を着ますか？

21件の回答



7. 実際に着物を着た時に感じたこと（複数回答可）

図1 1年に何回着物を着るか

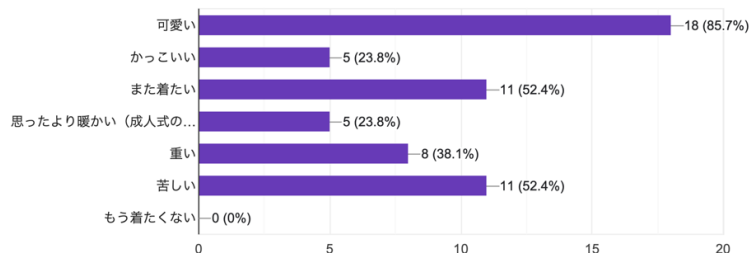
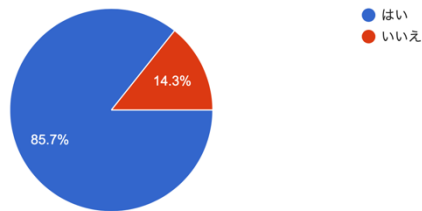


図2 着物着用時に感じたこと

本制作は、これから文化を知り継承していく10代、20代を中心とした若者を対象に着物文化を身近に感じてもらうことである。実際に図3にあるように着物は1年に一度も着

2.自分用に限らず(祖母・母含む)、着物(浴衣、振袖含む)を持っていますか？
21件の回答



ないが、親族を含め、着物を所持している人は85.7%にも及ぶ。型に嵌る着方だけでなく、自由にかつ個性を出したコーデに挑戦できる人が多いといった新しいやり方に対してフットワークが軽いのが若者世代の特徴であると仮定した。

図3 着物の所持のアンケート結果

そこに着目して、令和にあった着物の着方や古くからある有名な着物を紹介し、少しでも着物というモノを改めて認識し、身近に感じてもらうことを目的と定めた。

○方法

着物という情報量の多い題材を動画としてまとめるよりも自分なりのスピードで読み進め文字と画像を比べるのが容易であることから、雑誌形式を採用した。

雑誌制作という形式で主に InDesign を使用した。

そのほかの素材として日本の柄や花、イラストを制作するのに Illustrator、Procreate、Adobe express というソフトを利用した。

○制作過程

テーマ1「古典着物/モダン着物」



図4 モダン着物のページ

図5 古典着物と柄の比較のページ

昔からあるよくある着物、着物をイメージして真っ先に浮かぶもの(古典着物)と、現代的な着物(モダン)を比較した。(図4・図5)

このテーマの中で現代的なモダン着物を安く手に入れることができることを含めて伝える。

着物を持っているけれど着る機会がないという人が多いので、気軽に着るためのきっかけとなる要素を組み込んだ。

テーマ2「日本の柄」



図6 日本の柄についてのページ

昔からある日本の柄は日常的な場面でもみることが多い。

(神社や和風テイストの店)

身近な柄の意味などを取り上げて親近感を出す。(図6)

またテーマの最初に西洋の柄の特徴と比較をして、意外性を文面に入れておく。(図5左ページ)

テーマ3「帯結び」



図7 葵結び、松重ね



図8 ふくら雀



成人式や結婚式で人気の結びを載せ、わかり易い形状の帯結びを取り入れた。(図7)
特にふくら雀は成人式で毎年人気の結び方で、モデルとなったふくら雀のイラストも取り入れた。(図8)

テーマ4「着物の種類」



図 9 名産品(友禅、西陣織)



図 10 藍染、江戸小紋

着物について知らなくてもなんとなく聞いたことがある人が多い特産を多く入れた。
(図 9・図 10)

全体の流れについて

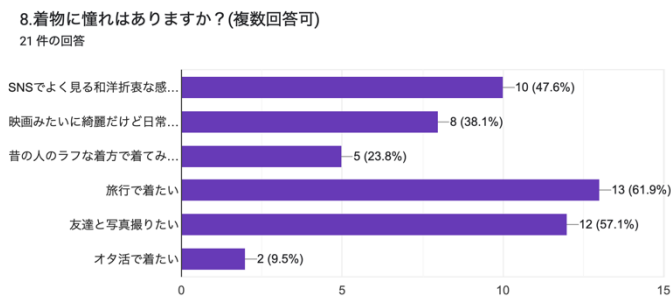


図 11 着物に対する憧れについてのアンケート結果

『最初に現代の着物について述べ、その次に知識要素を入れ込むことで体験的に着物を認識してもらう』ことを意識した。

最後に聞いたことのある名産品について知ってもらうことで着物文化を知っていると感じてもらえるようにした。

また図 11 の示すアンケート結果より、実際に SNS で見かける写真や旅行先で友人着てみたい、といった憧れを持っていることがわかった。

そのために、洋服と同じように推しの概念コーデといったオタク活動(オタ活・推し活)を着物でしている方も増えてきたこともあり、そういった「推し活」というワードや SNS 映えする柄の着物、具体的ないくらから買えるのかといった例を取り入れ、身近なものと感じてもらう工夫をした。

○結果

11.冊子をみて着物に興味が湧きましたか？
21件の回答

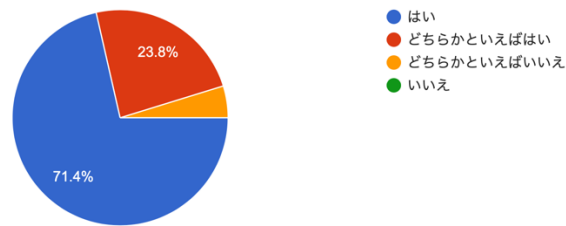


図 12 冊子をみて着物に興味があったかのアンケート結果

着物という情報量が多いなかでこういった切り口から着物に興味を持ってもらうのか、どうしたら身近に感じてもらえるのかがとても難しい問題であったが、図 12 の示すアンケートの結果から 95%以上の人に着物に興味を持ったという回答が得られたので当初の目的は概ね達成することができた。

また画像と照らし合わせて内容が理解できるように日常で見かける柄や模様を用いたことで理解度を深めることができた。

また意見の中には目的がわからないといった意見もあったが、当時の着方ではなく、現代の着方で楽しむという手段の提案や着物の華やかさを知ることができたというポジティブな意見もあった。

○まとめと今後の課題

実際に制作をし、アンケートをとったことで着物に対しての印象や海外との柄の比較、身近な柄の意味といった身近なものに目を向けてもらうことで印象付けることができた。

そのため、あらかじめ設定した若者世代の着物に対する価値観と身近に感じる要素を取り入れたことは正解であったと考えた。

しかし、切り口を増やしたことで統一感がでなかったこと、ポスターのようなページや、テキストのような堅苦しいページなどがあり、「雑誌としてなのか、教科書的なものとして作ったのか。そもそもの目的がわからない」といった意見もあった。

写真ばかりだと全体の雰囲気が厳かになり過ぎてしまう懸念が当初あったが、写真を使用しても全体の雑誌としての雰囲気やレイアウトをもっと突き詰めることができたのではないかと考えた。

今回の制作物は写真をメインにした冊子、その中で見開きページで印象的なページを入れ込むことで統一感がでたのではないかと考えた。

制作の失敗として、前段階の情報整理や入れ込む内容が要素としては間違っていなかったが、それを表現する素材をもう少し主張して焦点を絞れていなかったことと、実際に取り掛かるまでが長過ぎたことである。

次回同じテーマで取り掛かるにあたってレイアウトのテーマを決め、一度実際に作り始めてから、調整を重ねていくという行動力に焦点をあて制作していくべきであると考えた。

○使用したソフト・参考資料

- ・ InDesign
- ・ Illustrator
- ・ Procreate
- ・ きものとジャポニズム (平凡社/2017/08/25)
- ・ かわいいジャポニズム(東京美術/2017/10/28)
- ・ 時代をまとうファッション(NHK 出版/2020/12/25)
- ・ きもの教本(一般財団法人民族衣装文化普及協会/2013/9/1)
- ・ すぐわかる日本の伝統紋様(東京美術/2006/03/01)
- ・ 現代創作和服花月作品集 (2021/03)
- ・ 日本の内装材料辞典 : <https://naisouzairyou-annai.jp/pattern/tradition/index.html>
- ・ イラストマンション : <https://illustmansion.com/about-us>
- ・ IllustAC : <https://www.ac-illust.com>
- ・ わぷらす公式サイト:<https://www.wapluskyoto.jp/info/modern-kimono/>
- ・ 着物の柄 : <https://www.kimono-gara.com>
- ・ @ひばり * 令和浪漫 (2022 年 11 月に確認) ・ @川原マリア (2022 年 11 月に確認)